

めぐみイエス・キリスト教会

2018年4月15日(日)第三主日礼拝
週報「通算第401号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年4月15日(第三主日礼拝)

午後6時～7時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【交読文】 No.52 ルカの福音書第1章 p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.8 「神様の愛の言葉」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章5節～7節(新約p. 191上段左側)

【祈 禱】

【説 教】 《道、真理、いのちとは?》 鈴木竜実牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1 「道」とは？

※マタイの福音書7章13節～14節「山上の垂訓の教え」(新約p.11上段)

7:13 「狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」

※詩篇37篇5節「ダビデによる詩篇の言葉から」 (旧約p.862上段)

『あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。』

●ポイント2 「真理」とは？

※ヨハネの福音書18章37節～38節「総督ピラトの質問」(新約p.200下段)

18:37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「私が王であることは、あなたが言うとおりです。私は、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、私の声に聞き従います。

18:38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。

※ヨハネの福音書1章1節～4節「福音書最初の言葉」(新約p.157上段)

1:1 初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。

1:2 この方は、初めに神と共におられた。

1:3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

1:4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

●ポイント3 「いのち」とは？

※ヘブル人への手紙9章27節「一度死ぬことと裁きを」(新約p.399下段)

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

※第一ヨハネ5章11節～13節「長老ヨハネの勧めから」(新約p.431下段)

5:11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

◎先週のメッセージの概要【復活された一週間後に】

《さてイエス様が復活された日、太陽が沈みかけ、間もなく月曜日が始まろうとしていました。すでに使徒たちは合流していましたが、ユダヤ人たちは弟子たちを捜していましたが、彼らは戸にカギをかけて潜んでいたのです。

そこにイエス様が現われたのです。ペテロ、そして女性たち、またクレオパ夫妻も生きているイエス様にお会いするのは、この時二回目となります。しかし、残りの八人の使徒たちは、初めてお会いすることになります。

ペテロは後に、「私たちはイエス様と食事をした」ことを証していますので、この後イエス様と彼らが食事を共にしたことは間違いのないことだと思われまゝす。しかしこの時、デドモと呼ばれたトマスはいませんでした。なぜトマスがいなかったのかは、聖書には書かれていません。使徒の中で、ただ一人、生きておられるイエス様を見ることが出来なかったトマスはいじけてしまいます。「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」

これは、月曜日の朝以降にトマスが戻って来た時になされた会話だと思われまゝす。それからその週の日には、イエス様は弟子たちには現われません。

弟子たちは、「ガリラヤに行け」と命じられていたのですが、トマスは頑として、動こうとはしないのです。そして八日後の日曜日、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一緒にいた時です。カギがかけられていましたが、イエス様が来て彼らの中に立たれたのです。そしてトマスに、「あなたの指をここに付けて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇に差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」と言われたのです。

ここから私たちは何を学ぶべきでしょうか。それはイエス様が、一人の魂を大切になさると言うことなのです。トマスの願いと祈りに、このように答えて下さると言うことなのです。決して、十派一絡げではないのです。その後のトマスは、伝承によればペルシャとインドにまで、福音を宣べ伝え、殉教します。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、4月22日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈禱会は、4月18日(水)午後6時15分です。

2. 鈴木師は、4月17日(火)市川朝禱会に出席します。